

4-(2) 白いか高鮮度出荷技術開発試験

太田 武行

目的

ケンサキイカ（白いか）の新たな鮮度保持技術として、「活締め（神経締め）」について技術開発及び評価を行い、消費ニーズが高く付加価値向上につながる新たな白いかの出荷形態を創出することを目的とした。

方法

- ① ケンサキイカの漁獲量を漁獲統計調査により集計し、経年変化を求め、資源動向を検討した。
- ② ケンサキイカの出荷量の多い賀露地方卸売市場において6-9月に市場調査を行ない、外套膜長組成を把握した。
- ③ 活締め処理の前段階の墨袋除去技術を開発し、この手法をマニュアル化し、技術普及を行った。
- ④ デジタルカメラを活用し、身の透明度、体色の変化を経時的に測定できる手法を試行した。

結果

① 漁獲量

鳥取県のケンサキイカの漁獲量、水揚金額の推移を図1に示した。2016年の本県のケンサキイカの漁獲量、水揚金額は307トン、3.1億円で、前年より166トン、1.3億円減少した。

② 外套膜長組成

市場調査、漁獲統計調査により、2016年の賀露地方卸売市場に出荷する鳥取県漁業協同組合賀露、酒津、浜村、夏泊、青谷、泊支所におけるケンサキイカの5,6-9月の外套膜長別漁獲尾数を算出し、図2,3に示した。漁獲の主体は外套膜長20cm台で、7,8月には外套膜長10cm台の小型個体の漁場への加入が見られた。小型個体を主体とした新規加入群が減少した9月は、成長によると思われる外套膜長30cm台の比率が増加した。

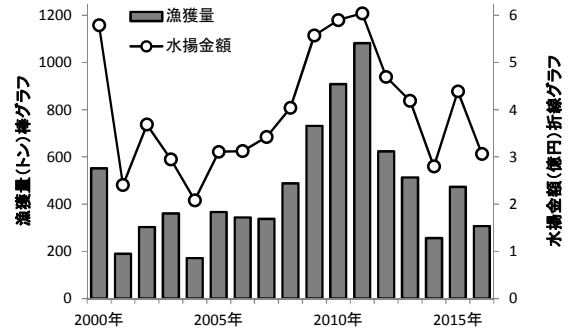


図1 鳥取県におけるケンサキイカの漁獲量及び水揚金額の推移

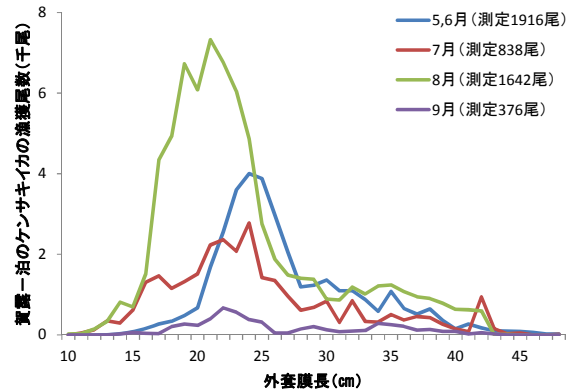


図2 賀露地方卸売市場におけるケンサキイカの外套膜長別漁獲尾数

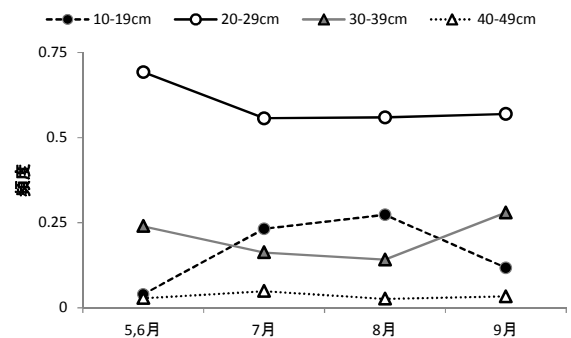


図3 賀露地方卸売市場におけるケンサキイカの外套膜長の推移

③ 墨袋除去技術の開発

写真1に示すとおり、ケンサキイカに傷を付けな
いで墨汁囊（墨袋）を器具で除去する方法を開発し
た。主要産地で墨袋除去技術の技術講習等を行い技
術普及した結果、墨汁囊を除去したケンサキイカを
「鳥取墨なし白イカ」というブランドで7月4日か
ら販売を開始した。

鳥取（賀露地方卸売市場）、赤碕（赤碕町漁業協同
組合市場）、淀江（鳥取県漁業協同組合淀江支所）の
3地区で鳥取墨なし白イカの単価を見た結果、通常
のケンサキイカの1.12-1.52倍となった。しかし、
漁獲時に一手間増えることもあり、鳥取墨なし白イ
カの出荷量は漁獲量の4.87%と低い数値であった。



写真1 ケンサキイカと除去した墨汁囊

④ デジタルカメラによる身の透明度、体色の経時 的变化把握

ケンサキイカの身の透明度、体色の経時的变化把
握の試行は2016年11月16日から11月21日の間、
デジタルカメラのインターバル撮影機能を利用し実
施した。その結果、墨汁囊除去によって体色変化に
マイナスの要因はないことが確認された（写真2）。
なお、一度のみの試験であるため、再確認等が必要
である。



写真2 墨汁囊を除去したケンサキイカ（左側2
尾）と対照個体（右側2尾）の体色（処理
38時間後）

表1 ケンサキイカの墨汁囊あり、なしでの単価比較（2016年7月4日-8月10日）

	墨なし漁獲量 (Kg)	漁獲金額(円)	墨なし単価 (円/kg)	墨あり漁獲量 (Kg)	漁獲金額(円)	墨あり単価 (円/kg)	単価差	単価比 墨なし/墨あり	墨なしの割合 漁獲量・%	墨なしの割合 漁獲金額・%
淀江	320	600,700	1,877	1,048	1,293,580	1,234	643	1.52	23.39	31.71
赤碕	116	168,054	1,449	2,656	3,425,600	1,290	159	1.12	4.18	4.68
鳥取	592	1,005,000	1,698	16,376	21,563,672	1,317	381	1.29	3.49	4.45
全体	1,028	1,773,754	1,725	20,080	26,282,852	1,309	417	1.32	4.87	6.32